

文部科学省大学間連携共同教育推進事業

平成 26 年度
報告書

京都三大学教養教育研究・推進機構

時代が求める新たな教養教育

Institute of Liberal Arts and Sciences

Kyoto Prefectural University of Medicine

Kyoto Institute of Technology

Kyoto Prefectural University

目 次

ごあいさつ

京都府立大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	5
京都工芸繊維大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	6
京都府立医科大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	7
京都府知事あいさつ		8

はじめに

平成 26 年度取組の到達点	11
----------------	----

第 1 部 教養教育共同化スタート

(1) 平成 26 年度共同化授業の概要	17
(2) 共同化授業の受講状況	21
(3) 授業実施環境の整備	27
(4) 京都学科目「京都学事始—近代京都と三大学—」の展覧会、シンポジウム	
ア 展覧会の概要	31
イ シンポジウムの概要	34
(5) リベラルアーツセンター主催 講演会	
何のために学ぶのか—教養教育と複眼的思考—	39

第 2 部 時代が求める新たな教養教育像の探求

(1) 平成 27 年度共同化授業構築等に向けた取組	
ア 平成 26 年度のリベラルアーツセンターの活動を総括して	47
イ 「共同化教養教育」の理念・目的と科目体系	48
ウ リベラルアーツセンターによる科目新設等の取組	
(ア) 共同化科目の新設等	
①平成 27 年度新設共同化科目「意外と知らない植物の世界」	56
②自然科学系リベラルアーツ・ゼミナール科目「製品の機能から科学を学ぶ」	58
③その他の活動	60
(イ) 2 回生以上対象共同化科目の新設	
① 3 回生配当科目「英語で京都」について	61
②リベラルアーツ・ゼミナール「経営哲学」のカリキュラム・ポリシー	62
③「時間生物学特論 (3 回生以上 (修士課程大学院生を含む))」	64
エ 京都学授業担当者会議報告	66
オ 共同化科目履修定員の調整の検討	68

(2) 学修成果の把握と質保証に向けた取組

ア 平成 26 年度の教育 IR センターの活動を総括して	73
イ 授業評価アンケート	
(ア) 授業評価アンケートのコンセプトと質保証	76
(イ) 教育改善報告書（ティーチング・ポートフォリオ）の事例 ー授業評価アンケートの活用ー	
①「心理学」	77
②「現代社会とジェンダー」	80
③教育改善報告書「現代社会に学ぶ問う力・書く力」	83
④授業「エネルギー科学」を担当して	86
ウ 共同化科目担当者会議	
ー対話とフィードバックのある授業を目指してー	
(ア) 成績評価の質保証と個別フィードバックの実践	88
(イ) 基礎・専門化学教育におけるフィードバック	91
エ 教養教育のカリキュラム論と質保証	96
オ 大学コンソーシアム等の中間支援組織と連携した質保証	104
カ データに基づいた学生像の把握	
ー大学 IR コンソーシアムとの連携ー	
(ア) 平成 26 年度京都府立大学における試行ー学習時間と単位の実質化ー	111
(イ) 単位の実質化と学修時間の把握	115
ーリベラルアーツ・ゼミナール「現代社会に学ぶ問う力・書く力」を事例としてー	
キ 公開研究会	
(ア) 平成 25 年度第 6 回「理工系大学における高度教養教育への視座」	119
(イ) 平成 26 年度第 1 回「教養教育における学習コミュニティ型カリキュラム ー長崎大学の教養教育改革を事例としてー」	122
ク 教養教育における学習成果の把握	
(ア)「人と自然と数学 α 」における学習成果の把握	127
(イ) リベラルアーツ・ゼミナール「社会科学の学び方」のカリキュラム・ポリシーと 古典精読による学習成果の把握	132
ケ 内部質保証システムに関する自己点検・評価と大学間連携特有の観点	140
ー大学間連携における教学 IR と教学ガバナンスー	

(3) 他大学視察

長崎大学視察	151
--------	-----

第3部 共同化の取組の点検（三大学教養教育運営協議会）

（1）三大学教養教育運営協議会会議開催概要（平成26年10月14日）	157
（2）専門委員による評価意見	
ア 三大学教養教育共同化の取組に関する外部コメント（江原 武一 専門委員）	163
イ 三大学教養教育共同化に係る評価報告書（圓月 勝博 専門委員）	168
ウ 理想主義と個性－専門委員としてのコメント－（小笠原 正明 専門委員）	172

資料編

京都三大学教養教育共同化による「新しい時代の要請に応じた教養教育」の実践	177
平成26年度京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会 委員名簿	178
三大学教養教育共同化推進体制	179
教養教育共同化施設「稻盛記念会館」の概要	180
会議の審議状況、視察・学会参加状況	184
平成26年度京都三大学教養教育共同化科目受講案内（抜粋）	195
京都三大学教養教育研究・推進機構 授業アンケート	205
京都三大学教養教育研究・推進機構 1年次生アンケート	206



京都府立大学

京都府立大学は、1895年（明治28年）に創立された京都府簡易農学校に源を発し、今年で開学120周年を迎えます。人文・社会・自然の諸分野にまたがる3学部・大学院3研究科を備えた総合大学であり、京都府における知の拠点として、小規模の利点を生かした密度の高い教育、高度かつ地域社会と密接に連携した研究、府内各地域の様々な課題に応える地域貢献活動や公開講座などを積極的に展開しています。

平成26年度からは、全国初となる京都府立医科大学、京都工芸繊維大学との教養教育共同化がスタートし、9月には新たな教育拠点として教養教育共同化施設（稲盛記念会館）が竣工しました。総合資料館、植物園、コンサートホール等からなる「北山文化環境ゾーン」の施設のひとつであり、学びと交流の場としての魅力がますます高まっています。



学長あいさつ

京都府立大学学長

築山 崇



2014年9月29日、いよいよ共同化施設（稲盛記念会館）が竣工し、3大学の学生のみなさんが一堂に会する授業が始まりました。また、施設1階に設けられたレストランは、カラフルでバリエーション豊富なレイアウトによって、食とくつろぎの魅力的な空間を提供してくれています。新しい施設と、新たな出会いが加味された、今までにない新鮮な学びの場が現実のものとなったわけです。

この新しい環境のもとで、現代の世界を読み解き、そこに主体的に参画していく力を培う学びを仲間とともに実現していくことが、今日の日本そして国際社会から学生のみなさんへの期待です。一方、京都学科目やリベラルアーツ・ゼミナールなど、共同化における教育内容の特色をより強めて、新しい教養教育のモデルを発信していくことが、本取り組みの今後の重点となってきます。新施設による授業が一巡する2015年度前半を機に、これまでの取組の検証と平行して、学修の質向上と教育体制のモデル構築という目標に向かって、取組が一段と進展することを期待しています。

副学長あいさつ

京都府立大学副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員長

小沢 修司

教養教育の共同化が始まりました。昨年の4月は各大学での共同化授業の実施であったために静かな滑り出しでした。教養教育共同化施設「稲盛記念会館」の共用が開始された9～10月からは三大学の学生が集い合い元気はつらつな交流の姿を見せてくれています。とくに、9月29日の会館の竣工式＝後期授業の開始に先立って9月22日から京都工芸繊維大学美術工芸資料館をお借りして開催した展覧会「京都学事始－近代京都と三大学－」は、全国で初めて教養教育の共同化を実現した三大学の歩みを近代京都の発展と照らし合わせて「魅せて」くれる貴重な機会となりました。

三大学の学生、教職員の現在が交流するとともに、過去も交流し始めました。となると、未来の交流を期待したくなります。槌音を響かす新総合資料館と府大図書館、文学部の合築棟が完成し、府大キャンパスの整備等が進むとなると、京都コンサートホールや府立植物園を含めて「北山文化環境ゾーン」一帯は新しい文化・学術・環境の発信拠点として多くの府民との交流が展開していきます。その一翼を教養教育の共同化が担う姿に思いを馳せています。



京都工芸繊維大学

京都工芸繊維大学は、明治時代の工業化や伝統産業の近代化に対応するために設立された京都高等工芸学校および京都蚕業講習所に端を発します。時代の進展とともに110余年にわたり発展を遂げながら、伝統文化の源である古都の風土の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築き上げてきました。この栄光ある歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性にもとづく技術の創造をめざして技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美の融合をめざし、教育研究の成果を世界に発信しています。

本学の特色としては、ものづくりを基盤とした「人に優しい実学」を目指した個性ある教育研究を行っているところです。



学長あいさつ

京都工芸繊維大学学長

古山 正雄



平成26年度に完成した教養教育共同化施設「稲盛記念会館」において、京都にある文系・理工学系・医学系の異なる個性の3大学の学生が、同じ授業を受講できるようになりました。この国立大学と公立大学が協働してカリキュラムの多様性と柔軟性を広げる試みは全国的にも初めてのもので、我が国はもとより世界に貢献しうる、まさに21世紀の知識基盤社会が求める人材を育成できるものと確信しています。

現代社会は、大量消費社会がもたらした資源の枯渇、地球的規模の環境悪化、経済社会のグローバル化と不均等発展など深刻な諸問題に直面しています。一方、日本国内においても急速に進む少子高齢化、格差の拡大などを背景として、私たちは様々な社会問題を抱えています。

このような状況下において大学は、すべての学生に自らが専攻する専門分野とは別に人文・社会・自然にわたる幅広く普遍的な知を学習させ、倫理観や歴史観、国際的な視野を持たせる責務があります。

このことから本学では、人間形成に必要な教養を涵養し、科学技術と人間性との調和・融合を図ることができる広い視野と感性を備えた高度専門

技術者を育成するための教育を実施してきました。今後も地域コミュニティの中核的存在として、様々な課題を解決することができる人材を輩出することが求められており、それに応える教育を実施していきます。

副学長あいさつ

京都工芸繊維大学理事・副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員

大谷 芳夫

府立2大学と本学が共同して新たな教養教育に取組もうという試みは、単位互換等の緩やかな連携から、教養教育共同化というユニークで強力な体制へと結実しました。平成26年度から始まったこの体制は、構想から約10年にわたる粘り強い努力の成果であり、関係者各位に敬意を捧げるとともに、支援を頂いた京都府、文部科学省に対して深く感謝するものです。

他学部の学生と共に教養教育を受けることは総合大学では珍しくありませんが、学生としての根本的なアイデンティティーである「所属大学」の異なる学生が共通の場で学び議論するということは、他では得られない貴重な体験であり、まさに「時代が求める新たな教養」の涵養に資すると確信しています。この試みがさらに大きく発展するよう、引き続き努力したいと思います。



京都府立医科大学

京都府立医科大学は、1872年（明治5年）、府民自らの寄付によって、京都東山の青蓮院に建設された療病院から誕生した日本最古の医科大学です。以来、時代に翻弄されながらも、140年の歴史の中で培った「人間愛」「地域貢献」「国際的視野の涵養（かんよう）」という教育理念は変わることなく引き継がれ、京都、日本、そして世界の人々の健康に貢献する人材を育成し、全人的な医療を実践してきました。

本学は、日本最古の医科大学の1つとして、その長い歴史に基づく知を継承・発展させ、新たな課題と立ち向かい、国際的視野に立って学術を創造し社会形成の担い手となることのできる有為な人材を育成することを通じて、現代社会の要請に応えることを目指しています。



学長あいさつ

京都府立医科大学学長

吉川 敏一



本学は「優れた医療人を育て、世界トップレベルの医学を府民の医療に活かす。」ことを使命として、「人間性豊かな医療人の育成」「世界トップレベルの医学研究の推進」「地域社会に貢献する医療の提供」という基本理念のもと、新たな「知」を創造・発信し、社会と地域と人々に貢献する大学づくりを目指しております。

京都三大学の教養教育共同化は、近隣に位置しそれぞれ長い歴史と特徴をもつ三つの大学で取り組んできたものですが、京都府が整備を進めておりました教養教育共同化施設「稲盛記念会館」が昨年9月に完成し、10月からは三大学の学生が同じ場所・同じ時間帯に集い共同化科目の講義を受けることができるようになりました。

共同化科目となった他大学の科目を、自大学の教養教育科目として履修することができるというこの取組を最大限に生かすことによって、幅広く深い教養を身に付け、それらに裏打ちされた知性と感性を生かして、病める人に総合的に対処できる人間性豊かな医療人になっていただきたいと思います。

教養教育共同化が本格的に開始されたことにより、異なる専攻分野の学生間の交流が深まり、また、開かれたキャンパスで多くの府民とふれあう機会が増えることによって、幅広い教養を持ち相手の立場でものごとを考える優れた医療人、自発的に課題を探究し独創的な研究能力を有する世界

トップレベルの研究者の育成につながっていくものと大いに期待しております。

副学長あいさつ

京都府立医科大学副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員

伏木 信次

平成26年9月29日の教養教育共同化施設（稲盛記念会館）の竣工は、京都3大学教養教育共同化事業にはずみをつけるものとなりました。同時期に開催されました「京都学事始展」での展示内容からも明らかのように、3つの大学は創立の背景・歴史が異なり、その結果として現在の大学色に個性があるわけですが、そうであればこそ、3大学の学生が教養教育の学びを同じ学舎で共有することが、一体どのような触媒作用を果していくことになるのか、今後に期待するところは実に大きいものがあります。優れた医師・医学研究者・医療人の育成をミッションとする京都府立医科大学にとりましてはその成果が待ち遠しく思われます。ところで、12月に開催された講演会で講師の永田和宏先生が、「大学は高校までの教育を捨てるための場であり、デフォルト化するためには教養教育の時代が大切」と教養教育の意義を強調され、あわせて大学は、よい師、友人、そして恋人との出会いの場であると語られました。教養教育共同化に係る克服すべき課題は依然として残っていますが、本事業の掲げる高い志の実現をめざして、関係者の叡智を集めつつ引き続き前進していくことを期待しています。

京都府知事 あいさつ

京都府知事 山田 啓二



京都府立医科大学、京都府立大学及び京都工芸繊維大学の三大学により、全国で初めての国公立大学による教養教育の共同化の取組が進められ、平成 26 年 4 月からスタートいたしました。更には、この取組を支援するため京都府が整備を進めてきた教養教育共同化施設が昨年夏に完成し、後期授業から、この施設において三大学の学生や教員が集い、三大学が共同で開発した教養科目の講義が始まりました。

これまで約 10 年間にわたり、共同化の実施に向け御尽力いただきました各大学関係者の皆様や、御支援をいただきました文部科学省や多くの皆様に改めて心から感謝を申し上げます。

現在の私たちを取り巻く環境は、社会・経済のグローバル化、少子高齢化、自然災害の巨大化など、私たちが経験したことのない様々な課題に直面しており、このような時代を乗り越え、我が国を支える人材を育てるには、専門教育だけではなく、自ら行動し、文化や立場の異なる様々な人々と連携・協働できる幅広い知識と教養を兼ね備え、豊かな人間性と高い倫理観を身に付けるための教養教育が必要であります。

このため、この共同化による教養教育では、人文・社会・自然諸分野の基礎を幅広く修得し、これらへの高い関心を育てるとともに、世界の人々の様々な生き方を感じ、豊かな人間性と高い倫理観を養うため、教養科目の選択幅を拡大するとともに、リベラルアーツ系科目を中心に歴史、社会、文化、芸術や京都の特色を活かした「京都学」等の多様な科目を開講しているほか、日々社会で起こる様々な問題等をテーマに議論し、人と関わるコミュニケーション能力を養うためのゼミナールを開講するなど、学生の皆様がこれから社会に出て行くための素養をしっかりと身に付けていただくための様々な取組を行っております。

また、三大学の学生や教員の皆様が同じ場所で共に学ぶ中で、授業だけでなく、スポーツ、文化、学術の交流など、今までにない人間関係の広がりや交流が生まれ、現在、京都府が取り組んでいる建設中の新総合資料館（仮称）、府立植物園や京都コンサートホールを含めた北山文化環境ゾーンの整備が完成すれば、府民の皆様の交流の場として地域全体の活性化にも繋がるものと考えております。

三大学や京都三大学教養教育研究・推進機構の皆様には、教養教育の共同化の目的を達成するため、時代が求める新しい教養教育の構築に向けて更に御尽力いただきますとともに、学生の皆様には大学の枠を超え、様々な人たちとの交流を深め、幅広い教養、高い倫理観とチャレンジ精神を身に付けていただき、日本はもとより世界に飛躍する人材となり、未来の希望をこの京都の北山の地からつくり上げる挑戦をしていただけることを願っております。

はじめに

平成26年度取組の到達点（総括コメント）

京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員長
京都府立大学副学長

小沢 修司

平成26年度取組の最大の特徴は、共同化授業がいよいよ本格的に実施されることになったことである。共同化授業が実施の局面に移ったということは、これまで続けてきた共同化に向けた取組が完成型を迎えるということではない。授業を実施してはじめて受講した学生からの反応が得られることとなり、いわゆるPDCAサイクルが動き出すことになることを意味している。

リベラルアーツセンターは当初の共同化構想に照らして新たな授業科目の開発を行い共同化の取組の発展型を模索したり、高校生にも視野を広げて私たちの目指す「新しい時代の教養教育」を発信し、教育IRセンターは授業評価アンケートの実施と共同化科目担当者会議の開催などを通じた質保証の取組を具体化しつつ機構における質保証とはなにかとの問いかけ・整理を行うなど質保証に向けた取組を本格化させた。また、外部評価体制として設けている三大学教養教育運営協議会においてはより専門的な立場からの外部評価を受けるため専門委員を委嘱し意見書の提出をいただいた。

これら共同化の取組の詳細は、第1部「教養教育共同化スタート」、第2部「時代が求める新たな教養教育像の探求」、第3部「共同化の取組の点検（三大学教養教育運営協議会）」の各項目に譲ることにして、ここでは主な取組の特徴について総括的にコメントすることで、取組の本年度の到達点と次年度に向けた重点課題を確かめておくことにしたい。

共同化授業の実践と発展、「新しい教養教育」の発信

共同化授業の実施を巡る環境整備という点で

は、教養教育共同化施設「稲盛記念会館」が9月に竣工を迎えたことをあげておきたい。前期は科目提供大学のキャンパスで行われたのに対し、後期からは三大学の学生が稲盛記念会館の教室で一堂に集まっての授業が行われただけでなく、美しく快適な教室で学ぶ学生たちの生き生きとした姿が印象的である。

また、前期試験の実施に向けて不正行為への対応を具体的に取り決めるなど共同化授業を円滑に進めるための環境の整備を進めた。この他、履修定員調整の方法を検討し、次年度からは抽選という方式は残るものの可能な限り学生の履修希望に応えることのできる履修登録システムを工夫した。

共同化授業の中味については、機構が準備した科目「京都学事始ー近代京都と三大学ー」の開講と結合させて展覧会「京都学事始ー近代京都と三大学ー」を開催し、また学生のみならず府民一般向けのシンポジウムを開催したことは、三大学が教養教育の共同化を開始したことを広く学内外に周知させていく取組として特筆しておきたい。これらの取組は、三大学が近代京都の発展に大きな役割を演じてきたことを、講義のみならず三大学が所蔵する資料類を一堂に展示することを通じて視覚的にも確認・再発見する機会となった。

リベラルアーツセンターが取り組んだ共同化科目の開発では、隣接する府立植物園をフィールドとして活用する文理融合型の科目「意外と知らない植物の世界」、文系・社会系のみであったリベラルアーツ・ゼミナールで新たな自然科学系のリベラルアーツ科目「製品の機能から科学を学ぶ」を平成27年度から設けることにしたことがあげられる。

また、教養教育の対象を1回生のみならず2回

生以上にも拡大する取組に着手したことも今年度の特徴として指摘しておきたい。科目「英語で京都」は3回生以上配当の教養教育科目として位置づけ、単なる英語を使っただけの「京都」の発信ではなく専攻する異なった学問領域の視点から三大学の学生が協働でビデオ制作するという野心的なねらいが込められている。また、3回生以上を対象に修士課程大学院生にも開講する「時間生物学特論」は、学際的な研究分野である生物時計について講義するものであるが、専攻する学問領域の異なる三大学の学生と担当教員とがどのように相互作用を見せていくのか楽しみな科目である。そして、リベラルアーツ・ゼミナールでも2回生以上対象の新たな科目を設けることにした。

この他、リベラルアーツセンターが取り組んだものとして京都産業大学の永田和宏教授をお呼びしての講演会をあげておきたい。「何のために学ぶのかー教養教育と複眼的思考ー」と題した講演では、専門である細胞生物学のお話も交えながら、短歌を素材として、感じることを表現する言葉の大切さをワークショップ形式で分かりやすく伝えていただいた。この講演会は三大学の学生のみでなく高校生にも聴講いただくことをねらいに据え、リベラルアーツセンターのきめ細かな広報・準備活動により多くの学生・高校生の参加を得ることができたのは「新しい教養教育」の発信として特筆しておきたい。

学修成果の把握と質保証の取組

教育 IR センターの取組では、開始された共同化授業の効果を測るべく授業評価アンケートに取り組むとともに機構の共同化の取組全般に対する学生の意識調査を実施することになっている（2月

実施のため報告書にはその結果は報告できない）。また、学生の履修状況と履修方法について、稲盛記念会館を利用できた後期といまだ利用できなかった前期とを比べて三大学の学生の交流がどの程度進んだのかの指標を開発・工夫する取組を行った。

また教育 IR センターは、前年度に引き続いて共同化科目担当者会議、公開研究会等による教員の授業研究と意識改革等にも精力的に取り組んだ。また、科目一覧における大分類（「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」）をさらに科目の特性に応じたグループ分け（中分類）を行い学生の履修ガイドとしての機能を向上させることにした。

ところで、教育 IR センターにおける質保証の取組では、大学間連携教育における質保証は各大学における質保証の取組とどのような関係を有するのかを問い直す必要があるため、機構が行う質保証でできることとその限界をしっかりと整理するという検討も精力的に行われたことを指摘しておきたい。

詳しくは教育 IR センターから後述されているが、三大学が連携して教養教育を（単位互換ではなく）共同化するという我々の取組は、15回の授業を学生に提供するために学年暦の統一を始め様々な授業実施環境を整えるという、通常は質保証とは認識されないことまで調整を行って実施していることは強調しておく必要がある。

外部評価への取組

共同化授業の開始に伴いPDCA サイクルが動き出すにあたって、外部評価への取組に言及しておきたい。

共同化事業について年次計画や事業実績を報告し、評価、助言を受け、さらに共同化の取組の着実な実施に向けた外部評価体制として三大学教養教育運営協議会を設置し、毎年、協議会を開催しているところであるが、本年度は共同化授業の実施を受けて教養教育に高度な識見を有する3名の専門委員を委嘱し意見書の提出を求める取組を行った。10月に開催した運営協議会では、協議会委員、専門委員から共同化の取組について高い評価をいただくとともに検討諸課題も率直に指摘され、その後、リベラルアーツセンター、教育IRセンターを始め機構全体で改善に取り組んでいるところである。

今後の発展に向けて

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」が立地する「北山文化環境ゾーン」（京都府における位置づけ）には、新総合資料館と府立大学の図書館・文学部との合築棟が建設中であり国際京都学センターも活動を開始することになる。また、府立植物園や京都コンサートホールなど、京都府立大学キャンパスを含め、新たな文化・学術・環境を発信し、学生・教職員・府民が多様に「交流」しあう地域、「場」が創出されていくことになる。教養教育共同化の取組は、こうした多様な「交流」と発信の一翼を担うものとして発展させていく課題を有している。

「新しい時代の教養教育」の「京都モデル」の構築と発信に向け正念場を迎えるのが次年度の取組となることを肝に銘じておきたい。

第 1 部

教養教育共同化スタート

(1)平成 26 年度共同化授業の概要

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学による全国初の教養教育共同化授業が平成 26 年 4 月から始まった。

教養教育共同化とは、京都三大学の各大学がリベラルアーツ系科目を中心とする教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目として学生に提供することによって、学生の科目選択の幅を大きく増やし、学修意欲を高めようとするものである。また、文系、理工系、医学系の専門分野や将来の志望が異なる三大学の学生が授業で混在し、多様な視点や価値観を交流して、一緒に学ぶことなどを通じて豊かな人間性の形成に資することもねらいとしている。

平成 26 年度共同化カリキュラムの概要

初年度の平成 26 年度は、共同化科目として、資料編 200 頁の「共同化科目一覧」のとおり講義方式 61 科目（人文系 21 科目、社会系 21 科目、自然系 19 科目）、リベラルアーツ・ゼミナール 7 科目（人文系 2 科目、社会系 5 科目）の 68 科目でスタートした。これらの科目は三大学いずれの学生も自大学の授業として履修でき、学生の科目選択の幅が 2～5 倍と大きく増加するとともに、諸分野をバランスよく履修することができることを目指した。

講義系 61 科目のうち 10 科目は、京都という地の地域的、歴史的、文化的特色を活かした「京都学」の授業であり、そのうちの 1 科目「京都学事始—近代京都と三大学—」は、三大学の足跡をたどりながら京都の近代化とそれに果たした三大学の役割を概観するリレー講義として新設した。

また、リベラルアーツ・ゼミナール 7 科目は、

学生同士が交流し、共通のテーマで対話し議論する力を育むことをねらいとした少人数のゼミナール科目であり、考え方や学び方の基礎力を培ったり、グローバルな視野を広げるなどの科目を新設した。

共同化授業の実施方法、履修定員等

共同化授業は、三大学で共通の学年暦を定め、前期は 4 月 14 日（月）から 8 月 4 日（月）（試験日を含む）、後期は 9 月 29 日（月）から 2 月 9 日（月）（試験日を含む）の期間の毎週月曜日の午後 3 つの時限を基本に開講することとした。

授業は、京都府立大学敷地内に新設された教養教育共同化施設「稲盛記念会館」の講義室で行うものであるが、前期は、同会館が建設工事中であったため、授業科目を提供する各大学で開講し、後期から同会館で開講した。

各科目について、三大学とも従来は履修定員枠を設けず、履修希望者数に応じた教室配当を行っていたが、稲盛記念会館がマンモス授業を避けて最大 200 人規模で整備されたこともあり、科目ごとに履修定員を設定した。また、1 つの授業に三大学の学生が混在することとなるため、科目定員の半分を科目提供大学が、残りの半分をその他 2 校で 1 年生の学年定員に応じて按分し、学生の履修希望が各大学に配分された履修定員を超えたときは各大学で抽選を行い、履修者を決定することとした。なお、前期は、科目を提供する各大学での開講であり、学生が短時間で他大学に移動するのが難しいなどの科目選択上の制約があることを考慮し、自大学の履修定員枠を 8 割程度とするなど原則を緩和した取扱いとした。

学生への受講ガイダンス

共同化授業が初めての取組であり、受講する学生に分かりやすく周知を行う必要があるため、三大学共通のガイダンス冊子「平成 26 年度京都三大学教養教育共同化科目受講案内」（資料編 195 ページから 204 ページ参照）を作成した。

冊子には、この 1 冊があればスムーズに共同化授業が受講できるよう、共同化の理念・目的をはじめ、共同化の履修方法、共同化科目一覧、前後期ごとの各科目の履修定員、各科目概要、授業が行われる各大学学舎・講義室のキャンパスガイド、開講時間割などを掲載した。各科目概要には、科目の概要だけでなく、学生へのメッセージや授業目的区分を各科目担当教員に照会し、掲載した。

学生への受講ガイダンスは、京都工芸繊維大学及び京都府立大学においては、入学に係る新入生履修ガイダンス時に、冊子の配付と併せて共同化科目の履修に関する時間枠を設けて説明を行った。この両大学では、共同化科目を 2 回生以上も受講することができるため、冊子を上回生にも配付した。京都府立医科大学では、新入生履修ガイダンス時に冊子の配付を行った。

また、共同化科目の履修に迷う学生へのアドバイスを行うため、機構特任教員による「個別履修相談会」を、前期は 4 月 3、4 日、後期は 9 月 22、29 日に実施した。利用学生は前期が 14 人、後期が 1 人と少なくはあったが一定の意義はあったと考えている。

(2)共同化授業の受講状況

前期の状況

共同化スタートとなった平成 26 年度前期の共同化科目は 32 科目であり、京都工芸繊維大学から 15 科目、京都府立大学から 11 科目、京都府立医科大学から 4 科目、機構から 2 科目（うち「リベラルアーツ・ゼミナールⅡ（現代社会に学ぶ問う力・書く力）」は、a、bとして2回実施）を提供した。32 科目中 1 科目は、夏期集中として開講した。

前期科目に係る学生の履修登録の状況は、次頁の別表「三大学教養教育共同化科目の履修登録者（平成 26 年度前期）」のとおりである。設定した定員総数が 4,619 人、履修登録者総数が 3,245 人で、定員に対する履修率は 70.3%であった。大学別では、京都工芸繊維大学が 76.5%、京都府立大学が 74.3%、京都府立医科大学が 40.2%である。

三大学学生の交流状況を示す自大学以外の科目を履修登録した学生は 369 人であり、履修登録者総数に占める割合は 11.3%であった。前期は、科目を提供する大学での開講であることから他大学学生の履修は多く見込めないと判断して定員割合を 2 割程度に設定したが、10%を超える履修登録があり、学生の共同化科目に対する関心の高さを感じた。

後期の状況

平成 26 年度後期の共同化科目は 36 科目であり、京都工芸繊維大学から 15 科目、京都府立大学から 9 科目、京都府立医科大学から 6 科目、機構から 6 科目（うち「リベラルアーツ・ゼミナールⅢ（社会科学の学び方）」は、a、bとして2

回実施）を提供した。36 科目中 3 科目は、冬期等の集中講義科目として開講した。

後期科目に係る学生の履修登録の状況は、23 頁の別表「三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2014 年度後期）」のとおりである。設定した定員総数が 4,200 人、履修登録者総数が 2,651 人で、定員に対する履修率は 63.1%であった。大学別では、京都工芸繊維大学が 65.2%、京都府立大学が 91.8%、京都府立医科大学が 15.7%である。

三大学学生の交流状況を示す自大学以外の科目を履修登録した学生は 1,360 人であり、履修登録者総数に占める割合は 51.3%であった。稲盛記念会館が完成し、本格的な共同化授業の開講となった後期は、前期と比べて三大学間の交流が大幅に進展した。

平成 27 年度への課題

上記のとおり大学により定員に対する履修率に大幅な差がみられるが、今年度は、各大学の履修登録手続きの期間が異なっていることにより、同科目で定員に空きがある大学があってもそれを定員が超過している大学に回すことができず、抽選しなければならないなど、学生の履修希望に一層応えていく上での課題が明らかとなった。そのため、平成 27 年度に向けて改善の検討を行ったが、その内容等については、別掲する。

三大学教養教育共同化科目の履修登録者（平成 26 年度前期）

提供 大学	開講 曜日	科 目 名	工芸繊維大学			府立大学			府立医科大学				合 計			左の内、 交流・機構枠		
			定員	履修者	履修率	定員	履修者	履修率	定員	履修者 (医)	履修者 (看)	履修率	定員	履修者	履修率	定員	履修者	履修率
府大	月 3	京都の歴史 I	45	33	73.3%	239	219	91.6%	15			0.0%	299	252	84.3%	60	33	55.0%
府大	月 3	現代の政治	18	1	5.6%	96	41	42.7%	6			0.0%	120	42	35.0%	24	1	4.2%
府大	月 3	現代京都論	31	30	96.8%	163	137	84.0%	10			0.0%	204	167	81.9%	41	30	73.2%
府大	月 3	物理学 I	14	14	100.0%	77	64	83.1%	5			0.0%	96	78	81.3%	19	14	73.7%
工織	月 3	日本近現代文学	110	107	97.3%	20	15	75.0%	10			0.0%	140	122	87.1%	30	15	50.0%
工織	月 3	現代教育論	130	129	99.2%	20	3	15.0%	10			0.0%	160	132	82.5%	30	3	10.0%
工織	月 3	生物学概論 I	110	100	90.9%	20	8	40.0%	10			0.0%	140	108	77.1%	30	8	26.7%
工織	月 3	環境問題と持続可能な社会	110	110	100.0%	20	12	60.0%	10			0.0%	140	122	87.1%	30	12	40.0%
医大	月 3	宗教学	5	2	40.0%	3	3	100.0%	107	107		100.0%	115	112	97.4%	8	5	62.5%
機構	月 3	リベラルアーツ・ゼミナールⅡ (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	10	7	70.0%	10	10	100.0%	10			0.0%	30	17	56.7%	30	17	56.7%
府大	月 4	食と健康の科学	14	14	100.0%	50	50	100.0%	5			0.0%	69	64	92.8%	19	14	73.7%
府大	月 4	京都の文学 I	18	10	55.6%	96	70	72.9%	6			0.0%	120	80	66.7%	24	10	41.7%
府大	月 4	社会学 I	31	15	48.4%	163	163	100.0%	10			0.0%	204	178	87.3%	41	15	36.6%
府大	月 4	現代社会とジェンダー	45	13	28.9%	239	129	54.0%	15	1		6.7%	299	143	47.8%	60	14	23.3%
工織	月 4	公共哲学	110	107	97.3%	20	13	65.0%	10			0.0%	140	120	85.7%	30	13	43.3%
工織	月 4	化学概論 I	80	79	98.8%	13	7	53.8%	7			0.0%	100	86	86.0%	20	7	35.0%
工織	月 4	人と自然と数学 a	80	80	100.0%	13	3	23.1%	7			0.0%	100	83	83.0%	20	3	15.0%
工織	月 4	キャンパスヘルス概論	110	111	100.9%	20	6	30.0%	10			0.0%	140	117	83.6%	30	6	20.0%
医大	月 4	日本文学 I	5	1	20.0%	3	1	33.3%	107	9		8.4%	115	11	9.6%	8	2	25.0%
医大	月 4	音楽	9	9	100.0%	6	3	50.0%	85		57	67.1%	100	69	69.0%	15	12	80.0%
医大	月 4	人文地理学 I	5	0	0.0%	3	0	0.0%	107	96		89.7%	115	96	83.5%	8	0	0.0%
府大	月 5	アジアの歴史と文化	18	9	50.0%	96	96	100.0%	6			0.0%	120	105	87.5%	24	9	37.5%
府大	月 5	現代日本と経済	31	11	35.5%	163	111	68.1%	10			0.0%	204	122	59.8%	41	11	26.8%
府大	月 5	京都の自然と森林	45	22	48.9%	239	196	82.0%	15			0.0%	299	218	72.9%	60	22	36.7%
工織	月 5	美と芸術	140	139	99.3%	20	10	50.0%	10			0.0%	170	149	87.6%	30	10	33.3%
工織	月 5	西洋文学論	80	45	56.3%	13	7	53.8%	7			0.0%	100	52	52.0%	20	7	35.0%
工織	月 5	比較宗教学	80	79	98.8%	13	13	100.0%	7			0.0%	100	92	92.0%	20	13	65.0%
工織	月 5	京の産業技術史	170	71	41.8%	20	2	10.0%	10			0.0%	200	73	36.5%	30	2	6.7%
工織	月 5	心理学	110	108	98.2%	20	20	100.0%	10	1	1	20.0%	140	130	92.9%	30	22	73.3%
工織	月 5	人権教育	110	10	9.1%	20	2	10.0%	10			0.0%	140	12	8.6%	30	2	6.7%
工織	月 5	エネルギー科学	110	56	50.9%	20	5	25.0%	10			0.0%	140	61	43.6%	30	5	16.7%
機構	月 5	リベラルアーツ・ゼミナールⅡ (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	10	3	30.0%	10	10	100.0%	10			0.0%	30	13	43.3%	30	13	43.3%
機構	集中	リベラルアーツ・ゼミナールⅣ (現代社会と映画製作)	10	9	90.0%	10	10	100.0%	10			0.0%	30	19	63.3%	30	19	63.3%
		合 計	2004	1534	76.5%	1938	1439	74.3%	677	214	58	40.2%	4619	3245	70.3%	952	369	38.8%

三大学教養教育共同化科目の履修登録者（平成 26 年度後期）

提供大学	開講曜日	科 目 名	工芸繊維大学			府立大学			府立医科大学				合 計			左の内、 交流・機構枠		
			定員	履修者	履修率	定員	履修者	履修率	定員	履修者 (医)	履修者 (看)	履修率	定員	履修者	履修率	定員	履修者	履修率
工織	月 3	京の意匠	98	79	80.6%	66	66	100.0%	32	0	1	3.1%	196	146	74.5%	98	67	68.4%
工織	月 3	東西文化交流史	50	49	98.0%	33	33	100.0%	16	2	0	12.5%	99	84	84.8%	49	35	71.4%
工織	月 3	文化社会学	50	9	18.0%	33	33	100.0%	16	1	0	6.3%	99	43	43.4%	49	34	69.4%
工織	月 3	化学概論Ⅱ	50	25	50.0%	33	27	81.8%	16	0	0	0.0%	99	52	52.5%	49	27	55.1%
工織	月 3	生物学概論Ⅱ	50	44	88.0%	33	33	100.0%	16	2	0	12.5%	99	79	79.8%	49	35	71.4%
工織	月 3	科学と思想	50	27	54.0%	33	29	87.9%	16	1	0	6.3%	99	57	57.6%	49	30	61.2%
工織	月 3	哲学	87	85	97.7%	58	58	100.0%	29	0	1	3.4%	174	144	82.8%	87	59	67.8%
府大	月 3	京都の歴史Ⅱ	37	35	94.6%	50	50	100.0%	12	0	0	0.0%	99	85	85.9%	49	35	71.4%
府大	月 3	国際政治	46	10	21.7%	60	60	100.0%	14	1	0	7.1%	120	71	59.2%	60	11	18.3%
医大	月 3	医史学	90	21	23.3%	60	55	91.7%	150	27	1	18.7%	300	104	34.7%	150	76	50.7%
機構	月 3	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ a (社会科学の学び方)	10	6	60.0%	10	10	100.0%	10	3	0	30.0%	30	19	63.3%	30	19	63.3%
工織	月 4	経済学入門	87	41	47.1%	58	40	69.0%	29	0	1	3.4%	174	82	47.1%	87	41	47.1%
工織	月 4	人と自然と数学β	50	47	94.0%	33	13	39.4%	16	1	0	6.3%	99	61	61.6%	49	14	28.6%
工織	月 4	人と自然と物理学	50	48	96.0%	33	24	72.7%	16	0	0	0.0%	99	72	72.7%	49	24	49.0%
府大	月 4	京都の文学Ⅱ	37	33	89.2%	50	50	100.0%	12	0	0	0.0%	99	83	83.8%	49	33	67.3%
府大	月 4	社会学Ⅱ	65	29	44.6%	87	87	100.0%	22	7	0	31.8%	174	123	70.7%	87	36	41.4%
府大	月 4	現代社会と心	74	74	100.0%	98	98	100.0%	24	4	1	20.8%	196	177	90.3%	98	79	80.6%
府大	月 4	宇宙と地球の科学	37	36	97.3%	50	50	100.0%	12	0	0	0.0%	99	86	86.9%	49	36	73.5%
医大	月 4	日本文学Ⅱ	29	29	100.0%	20	20	100.0%	50	16	0	32.0%	99	65	65.7%	49	49	100.0%
医大	月 4	人文地理学Ⅱ	36	35	97.2%	24	24	100.0%	60	60	0	100.0%	120	119	99.2%	60	59	98.3%
医大	月 4	ラテン語	29	27	93.1%	20	20	100.0%	50	2	2	8.0%	99	51	51.5%	49	47	95.9%
医大	月 4	文芸創作論	36	28	77.8%	24	24	100.0%	60	1	0	1.7%	120	53	44.2%	60	52	86.7%
機構	月 4	リベラルアーツ・ゼミナールⅠ (感覚で探る問題解決の方法)	10	10	100.0%	10	10	100.0%	10	1	0	10.0%	30	21	70.0%	30	21	70.0%
工織	月 5	西洋文化論	50	48	96.0%	33	33	100.0%	16	0	1	6.3%	99	82	82.8%	49	34	69.4%
工織	月 5	日本史	50	14	28.0%	33	33	100.0%	16	0	0	0.0%	99	47	47.5%	49	33	67.3%
工織	月 5	政治学	50	10	20.0%	33	30	90.9%	16	0	0	0.0%	99	40	40.4%	49	30	61.2%
工織	月 5	科学史	87	29	33.3%	58	27	46.6%	29	0	0	0.0%	174	56	32.2%	87	27	31.0%
工織	月 5	地球の科学	98	39	39.8%	66	48	72.7%	32	1	0	3.1%	196	88	44.9%	98	49	50.0%
府大	月 5	京都の農林業	37	37	100.0%	50	50	100.0%	12	0	1	8.3%	99	88	88.9%	49	38	77.6%
府大	月 5	生活と経済	37	12	32.4%	50	50	100.0%	12	0	0	0.0%	99	62	62.6%	49	12	24.5%
府大	月 5	人類生態学	65	43	66.2%	87	87	100.0%	22	0	0	0.0%	174	130	74.7%	87	43	49.4%
医大	月 5	人間学	36	21	58.3%	24	24	100.0%	60	6	0	10.0%	120	51	42.5%	60	45	75.0%
機構	月 5	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ b (社会科学の学び方)	10	5	50.0%	10	3	30.0%	10	1	0	10.0%	30	9	30.0%	30	9	30.0%
機構	月 5	京都学事始 一近代京都と三大学一	33	21	63.6%	33	33	100.0%	33	0	0	0.0%	99	54	54.5%	99	54	54.5%
機構	集中	リベラルアーツ・ゼミナールⅤ (アメリカと中国はいま)	10	10	100.0%	10	10	100.0%	10	2	0	20.0%	30	22	73.3%	30	22	73.3%
機構	集中	リベラルアーツ・ゼミナールⅥ (現代イスラーム世界の文化と社会)	10	10	100.0%	10	10	100.0%	10	4	0	40.0%	30	24	80.0%	30	24	80.0%
機構	集中	リベラルアーツ・ゼミナールⅦ (感性の実践哲学)	10	10	100.0%	10	10	100.0%	10	0	1	10.0%	30	21	70.0%	30	21	70.0%
		合 計	1741	1136	65.2%	1483	1362	91.8%	976	143	10	15.7%	4200	2651	63.1%	2231	1360	61.0%

(3)授業実施環境の整備

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」の完成

平成 26 年 9 月 29 日、教養教育共同化施設「稲盛記念会館」の竣工式が開催された。

この施設は、新たな文化・学術・環境を発信する「北山文化環境ゾーン」整備のメイン施設の一つとして、平成 24 年 10 月に建設着工したが、平成 26 年 4 月からスタートした京都三大学による教養教育共同化の拠点施設として、その完成が待ち望まれていた。

稲盛記念会館の施設概要は、資料編に掲載のとおりであるが、総工事費約 28 億円、鉄筋コンクリート造り、地下 1 階地上 3 階建て、延床面積 9,088.73㎡の規模で、200 人規模を最大に 17 教室、2 つの自習室などの豊かな学修空間のほか一般府民も利用できるレストランや環境に配慮した整備が行われている。

この稲盛記念会館の事務室には機構が入居するとともに、共同化授業が行われる毎週月曜午後等には三大学の教務担当者が控え、窓口業務を行うなどの体制を整えた。



共同化授業に係る試験等実施体制の構築

平成 26 年度からの共同化授業開始に当たって、昨年度、履修登録や履修定員、休講の基準や成績評価など三大学で共通的な取扱いができるよう調整を行ったが、不正行為への対応などの試験の取扱いについては今年度への積み残しとしていた。

そのため、共同化授業実施委員会で検討を行った結果、次のとおり取り扱うこととした。

まず試験会場の定員については、ゆとりを持った試験定員を設定することとし、定員超過により試験会場を追加する場合も含めて試験監督補助員の配置については、科目提供大学の取扱いによることとした。

また、試験場への入退出の時間や持ち物の取扱いなど基本的な事項は大学間で同等であるため、教員や学生への周知については、各大学の方法で行うこととするが、その際、例えば学生証を忘れた者は、稲盛記念会館事務室の自大学窓口担当者から自大学仮学生証の発行を受けることなど必要に応じて適宜補足説明を行うこととした。

さらに、仮に不正行為があったときは、次の手順で当日対応を行うこととした。

- ① 科目提供大学の試験監督者が不正行為を現認・証拠品を差し押さえる
- ② 試験終了後、試験監督者は科目提供大学の学務担当へ対象学生・証拠品を引き継ぐとともに不正行為発見届出書を作成・提出
- ③ 科目提供大学から学生所属大学へ②の届出書を直ちに送付して連絡
- ④ 学生所属大学は、不正行為のあったその日のうちに学生から事情聴取を行う

(4)京都学科目「京都学事始
ー近代京都と三大学ー」の
展覧会、シンポジウム

ア 展覧会の概要

会期

平成 26 年 9 月 22 日（月）～ 10 月 24 日（金）

会場

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

本展覧会の位置付け

展覧会「京都学事始展－近代京都と三大学－」は、本年度後期より開講した共同化科目「京都学事始－近代京都と三大学－」（以下、「京都学事始」）と密接に関わる展覧会として開催された。

共同化科目「京都学事始」では三大学の教員によるリレー講義だけでなく、授業の一環として、展覧会やシンポジウムを開催し、受講生は授業だけでなく、これらの催しへの参加も求められる点に特色がある。

また、講義自体は三大学の学生向けであるが、シンポジウムや展覧会については一般の人々にも公開し、講義内容や三大学の教養教育共同化を広く一般に発信する役割を期待され、企画された。（なお、シンポジウム「京都学事始－近代京都と三大学－」については、34～35 ページで報告）

展覧会の概要

本展覧会は 33 日間開催され、会期中の来館者は、1,626 人だった。また、刊行物として図録「京都学事始展－近代京都と三大学－」を作成し、「京都学事始」の受講生や来館者、シンポジウム参加者などに配布した。

展覧会初日には、資料提供者や共同化科目「京

都学事始」の担当教員、三大学の教職員などが出席して、資料館前でオープニングセレモニーが執り行われた。



三大学学長によるテープカット

展示概要

今回の展覧会は、〈Ⅰ．近代京都と三大学〉、〈Ⅱ．三大学の歴史〉、〈Ⅲ．学びの場としての三大学〉の三部構成で行われ、出品点数は 99 点であった。

1. 〈Ⅰ．近代京都と三大学〉

美術工芸資料館の正面玄関から館内に入ると、そこには中央ホールと呼ばれる、吹き抜けのスペースが広がる。この度の展覧会ではこの空間に、各大学の来歴や学問分野などを象徴するような資料を展示した。ホール正面には、府立大の附属演習林でかつて使用されていた鋸や斧などの道具類、工芸繊維大学所蔵の美術工芸品、府立医大の前身である「療病院」の銘が入った火鉢を一カ所に集め、共同化事業をすすめる三大学の取組を象徴させた。

この他に、三大学の中でもっとも歴史が古く、明治 5 年（1872）に創設された府立医大から出品された草創期当時の貴重な史料や所蔵品、島津製作所製の有職人形や植物模型、府立大が所蔵す

る「京都名所大鳥瞰図」の複製、工芸繊維大学が所蔵するアール・ヌーヴォー期のポスターなど、大型の美術工芸品や露出可能な資料も展示した。



中央ホール正面の展示風景

2. 〈Ⅱ. 三大学の歴史〉

ホールの東側に位置する第一展示室では、各大学の創設期や転換期にスポットをあて、三大学の歴史を各大学の所蔵資料などを通じて紹介した。また、教員や学生らによって収集された教材やコレクションなどもあわせて展示した。

例えば、府立大の前身の一つである、京都府立女子高等専門学校（昭和2年開校）の資料として、今回、昭和10年ごろに学生らによって収集された各地の郷土玩具や民芸品類（第一展示室）や和裁関連の資料（中央ホールおよび第二展示室）を



第一展示室の展示風景

展示した。これらの資料は武庫川女子大学（兵庫県西宮市）に寄贈され、現在まで保管されているが、今回展示された資料の中には、三大学内にとどまらず、他にも各大学の卒業生や外部の機関・施設から借用された三大学に縁のある資料が含まれている。

3. 〈Ⅲ. 学びの場としての三大学〉

ホール西側の第二展示室では、教科書や講義ノート、教材、生徒による課題作品や古い卒業アルバムの写真などの展示を通して、三大学の学生達がいかに学び、どのような学生生活を送っていたのかに焦点を当てて、展示した。

展示室の壁面には、三大学の設立から現在に至るまでの年表を掲示し、それぞれの大学の歩みと



第二展示室の展示風景



武庫川女子大学所蔵の女専資料（第二展示室）

近現代の京都の流れが把握できるよう試みた。

来館者アンケートの集計結果

開催期間中、148 枚の来館者アンケートが回収された。集計結果によれば、来館者の内訳は、共同化科目「京都学事始」の受講生などの三大学の在校生や卒業生をはじめ、三大学への入学を志望する受験生や通りがかりに訪れた人など多岐にわたっていた。また、「京都学事始」だけでなく、博物館実習などの他の講義履修者も見学に訪れていた。

来館者の居住地については、近畿地方を中心に北は北海道、南は福岡県までの日本各地におよび、台湾からの旅行者もみられた。

ここでは、その中から展覧会の感想について、一部だが紹介しておく。

- ・古い計算機、和文タイプがおもしろかった。ミユシャも見れてよかった。(20 代・工織大生)
- ・各大学の知らなかった歴史を知り、非常に興味深く思った。また、展示品からうかがえる、当時の技術や状況なども面白かった。(10 代・浪人生)
- ・第3回府大卒業生としては、我々が知ってるものの、展示が少なかった。移転が多かったのも、そのたび失われたのかと残念。(80 代・主婦)
- ・個々のテーマをより深めてもいいのではないかなと思った。三大学の関連性についてももう少し深めてほしかった。(10 代・府大生)
- ・京都工芸繊維大学は母校なので、何となく歴史は知っていた積もりですが、改めて認知できる内容が多かったです。二校は一層です。(40 代・教員)

- ・三大学自体にはあまり関心はなかったが、三大学の歴史を通して語られる京都や日本の近代の様子は、とても興味深かった。入ってすぐのこのこは目を引いた。(20 代・工織大生)

まとめ

この度の展覧会では、創設期から現代にいたるまでの三大学の歴史と近代京都の発展について、各大学の資料や所蔵品などから振り返ることに一つの目的があった。だが、それだけでなく、従来の神社仏閣や茶、花といったステレオタイプの京都学ではない、あらたな京都学の可能性を三大学から発信することにより、三大学が教養教育共同化を始めることの意義と魅力を、将来の受験生を含む一般に周知することを重要な目的として企画、開催された。

一日限りで事前の申込が必要な場合も多い講演会やシンポジウムと比較すると、開催期間が長く、また入館料が無料だったことも奏功し、より幅広い層に対し、三大学の取組や各大学の歴史的文化的背景などをアピールする場となったといえよう。

世代や出身（在学）校によって、展示内容や展示品に対する受け止め方は様々だったことは、アンケートの結果からも明らかであるが、この度の展覧会により所在がわかった資料や各大学の所蔵品を通じて、今後の三大学の交流や共同化の取り組みが、さらに発展する契機になれば幸いである。

イ シンポジウムの概要

日時

平成 26 年 10 月 18 日(土) 13 時 30 分～17 時

会場

京都工芸繊維大学 センターホール

シンポジウムの概要

1. 基調講演「京でまなぶ、京にまなぶ」

講師：山本壯太氏（古典の日推進委員会・琳派 400 年記念祭委員会ゼネラルプロデューサー）

2. 山本氏と共同化科目「京都学事始—近代京都と三大学—」の担当教員（4 名）によるパネルディスカッション

今回のシンポジウムは、共同化科目として後期に開講されたリレー形式の講義「京都学事始—近代京都と三大学—」の一環として開催され、当日は講義を受講している一回生のほかに、各大学の教職員や卒業生、一般の方など約 120 名が参集した。

基調講演の概要

基調講演の講師には、三大学教養教育運営協議会委員であり、古典の日推進委員会・琳派 400 年記念祭委員会ゼネラルプロデューサーの山本壯太氏をお招きした。

講演の中で山本氏は、京都で過ごした学生時代の思い出や、NHK 勤務時代に大河ドラマの制作に携わっていた頃の経験、平成 11 年に NHK 京

都放送局長として 30 年ぶりに京都に戻られてからのエピソードなどを交え、京都という街の持つ独自性や文化力、京都で学ぶ意義などについて講演された。

これまでに約 50 カ国を取材などで訪れた山本氏は、東京やニューヨークのような 20 世紀型の「経済を中心にした巨大都市」から、街が持っている伝統や文化、歴史を基底とした「人間として豊かな住みやすい環境の都市」が 21 世紀型の都市に求められており、京都こそはその条件を備えた都市であると述べられた。

さらに、京都という街が長い年月をかけて築き上げた文化力を考える学問が京都学であり、学生に向けて、普遍性のある「地域学の一つのモデル」として京都学を学び、それぞれの分野や各地域での活動を行う上で活かしてほしいと結ばれた。



講演する山本氏

パネルディスカッションの概要

後半のパネルディスカッションでは、山本氏に加えて、共同化科目の担当教員である井口和起氏（京都府立総合資料館顧問）、並木誠士氏（京都工芸繊維大学教授）、八木聖弘氏（京都府立医科大学准教授）がパネリストとして登壇した。また、

コーディネーターは、同じく担当教員の宗田好史氏（京都府立大学教授）が務めた。

三大学それぞれの歴史と近代京都の関わりについて各教員から紹介された後、歴史的、現代的視点の双方から意見交換が行われた。

議論の最後には、大学の歴史も学問分野も異なる三大学の学生が、教養教育の共同化をきっかけとして、「分野を超えた出会い」を果たすこと、さらに、三大学の学生と京都、一般府民・市民が関わり合い、「さまざまな可能性を開いていく」ことが、新たな京都学の構築にとっても重要であると締め括られた。

まとめ

今回のシンポジウムでは、質疑応答の時間は設けられなかったが、受講生や一般参加者からアンケートに寄せられた意見や感想を以下に紹介し、まとめに代えたい。

- ・ 日常過ごしている都市・京都に対して改めて見方を教えて貰った。(60代・ボランティア)
- ・ 80年以上も生きて来た私にとって、これからの3大学が如何に地域に必要とされる大学になるか、どう変わって行くかある意味で楽しみにしています。(80代・女性)
- ・ 三大学で同じ場所で勉強するということは、教養を身につけられるだけでなく、様々な人と出会える貴重な体験であると感じることができ、今回のシンポジウムは非常にためになるものだった。(「京都学事始」受講生・工織大)
- ・ 京都は古い昔の都というだけでなく、20世紀型に代わる21世紀型の未来をもっているという考えが印象深く、面白いと思いました。現在の京都がかかえている問題と解決の話などもあればより良かったと思います。(「京都学事始」受講生・府立大)
- ・ 京都について様々な視点で考えることができ、京都の歴史的な出来事と現代の京都のつながりを学ぶことができた。遷都によって大きな喪失感を味わいながらも地場産業や文化を当時の人達が発達させてきたからこそ今の京都があるのだと思った。4年間の大学生活で京都でしかできない様々な経験を積み重ねていきたいと思った。(「京都学事始」受講生・府立大)

これらの感想はほんの一部にすぎないが、京都という街に対して、客観的かつ多様な視点から語られた山本氏の講演と、三大学の歴史と関連させながら近現代の京都について議論されたパネルディスカッションは、多くの参加者にとって、新鮮な切り口を提示したようで、これから専門課程へと進む三大学の一回生も大いに刺激を受けた様子が、アンケートからうかがえるだろう。



パネルディスカッションの様子

展覧会及びシンポジウムのチラシ

(5)リベラルアーツセンター主催
講演会
何のために学ぶのか
ー教養教育と複眼的思考ー

何のために学ぶのかー教養教育と複眼的思考ー

京都三大学教養教育研究・推進機構 リベラルアーツセンター長
京都府立医科大学教養教育部長

小野 勝彦

平成 26 年 12 月 21 日（日曜日）に、京都産業大学総合生命科学部教授の永田和宏先生を演者として、リベラルアーツセンター主催の講演会を開催した。以下、その報告である。

講演会の目的: 今回の講演会では、三大学の学生、特に 1 学年学生を対象として、教養について、また教養教育を学ぶ意味について、啓蒙的に伝えることを目的とした。前年度までの機構やリベラルアーツセンターが主催した講演会では、一般の参加者ばかりが目立ったという印象があったため、今年度は学生を対象にするという視点を前面に出すことを考えた。このことから講演会は、三大学学生を対象とし一般には非公開とした。さらに、京都市内の高校生へも参加を呼びかけて、将来の「三大学学生」となる高校生や、「教養」に興味のある高校生にも参加してもらい、大学生の学びの姿を見てもらうことを目的とした。これらのためセンター長（筆者）と機構特任准教授の藤井が苦勞することになるのだが、それは後述する。

永田和宏先生について: 講演をお願いした永田和宏先生は、京都産業大学総合生命科学部教授、京都大学名誉教授（再生医科学研究所）で細胞生物学の分野では著名な研究者として知られている。タンパク質の機能構造維持に重要なヒートショック蛋白の発見、タンパク質の品質管理や小胞体ストレスの研究は世界的に有名で、いまも世界を股にかけて活動されている。また、永田先生は大学に入学される前後より歌人としての活動もされており、こちらの分野でも非常に著名な先生である。短歌結社「塔」を主宰されており歌集やエッセイなども数多く出版されており、また朝日歌壇や皇室の歌会始の選者としてもご活躍されてい

る。岩波新書に『タンパク質の一生』、『現代秀歌』、『近代秀歌』と理系・文系の両方の分野に出版されている数少ない研究者である。さらに、平成 26 年 4 月から京都新聞に 24 回にわたって連載されたエッセイは、永田先生の教育に対する思いが込められたものであり、学生への熱いメッセージをお願いするにふさわしい先生である。詳細なご略歴などは、京都産業大学の永田先生の研究室の Web サイトなどをご覧ください。

講演会の準備ー 1: 本機構の当初の計画書には「ノーベル賞受賞者による講演会」とあった。永田先生のご研究はそれに匹敵するものであり、加えて文理横断的活動をされていることから、三大学の学生を対象に講演をお願いするに一番ふさわしい先生として考えた。永田先生に講演をお願いすることは、年度初めから考えていた事であった。ただ、9 月中旬まで講演会開催の動きを始めることができなかった。さらに 1 月下旬から 2 月上旬の開催ができず、師走も押し迫った日曜日の午後開催するというかなり無理な日程になった。

9 月中旬に、活動が解禁となるとすぐに永田先生に連絡して、藤井准教授とともに京都産業大学の永田先生の研究室におじゃました。趣旨をご説明し日程の確認をお願いして、講演の快諾をその場で得た。講演会の内容に関しても、1 時間程度の講演とそのあとに短歌を題材とするワークショップを行うことで了解をいただいた。講演のタイトルは、いくつかの候補を永田先生からいただき、先生のエッセイの内容も参考にしながら、「何のために学ぶのかー教養教育と複眼的思考」に決めさせていただいた。これらは、永田先生と藤井准教授とのメールのやり取りで行われた。会場については、あれこれ意見があったが稲盛記念会館内の医

大の 208 講義室に決めた。120 人定員で無理のない人数の教室であり、椅子の座り心地も共同化講義室と比較すると格段に良いことが理由である。

講演会の準備－2：講演会の日程、会場、タイトルなどが決まると、具体的な準備に入った。ポスターの作成、学生や高校生への呼びかけ、講演会当日準備である。

ポスターは、センター長と藤井准教授とで作成、A2 版の手作り感あふれるものが 3 時間程度でできた。講演会の趣旨がわからないのでポスターの裏にも記載したらどうかなど他の方々からいろいろご意見を賜ったが、とりあえずシンプルなものにした (p.43)。これらは、各大学の掲示板に貼ってもらった。また、同じものを A4 版で作成し、この裏には別ページにある大学生向けまたは高校生向けの案内文 (p.44) を印刷してハンドアウトとした。ただ、講演会直前になっても案内を配布されていない学生が多くいることがわかり、大変残念であった。

講演会の案内は、センター長と藤井准教授が精力的におこなった。まず、京都市内の高校にはポスターと趣旨を記載した文面を本機構から送ってもらった。加えて、いくつかの高校にはセンター長または藤井准教授が直接出向いて、趣旨の説明と参加への協力を仰いだ。12 月 21 日には、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校では、京都大学との連携行事があることがわかり、加えてこの日は、全国高校駅伝大会が京都市内で開催されるということで日程としてはかなり厳しいことがわかってきた。三大学学生には、各大学のリベラルアーツセンター兼任教員を通してハンドアウトの配布を依頼した。ただ、師走の日曜日の午後であり、自らの学生時代を振り返ってみて

も放っておくと参加者が集まらないのは自明であり、どのように学生を「動員」するかに腐心した。藤井准教授は、自身のリベラルアーツゼミの学生や知り合いの学生への呼びかけ、および各大学の部活動のクラブボックスまで何度も出向いて参加の呼びかけを行った。センター長は、医大生に対して趣旨を何度も説明し、大学祭実行委員を通して広報活動、過去のゼミ受講生に対しての案内などを何度も何度も繰り返した。さらに、センター長の所属する医学科生物学教室の野村准教授により、講演会の 1 時間前に医大生に対して、細胞生物学／人体に関する DVD の上映会が企画され開催された。この上映会は、永田先生の講演会のために企画・開催されたものであり、DVD は野村准教授がこのために購入したものである。これらの努力は、参加人数に反映された (後述)。

講演会当日のスケジュールは、藤井准教授を中心に本機構の事務が担当した。永田先生と連絡を取りながら、当日のプログラム作成と印刷、ワークショップでの短歌の印刷、当日の交通機関の手配などなど。当日、永田先生には、早めに会場の稲盛記念会館においていただき、小沢修司機構運営委員長、センター長、藤井准教授とで打ち合わせを行った。

講演会：講演会では、小沢機構運営委員長の開会のあいさつで、三大学教養共同化の趣旨についての説明があった。これに続いて、永田先生に 1 時間の講演をいただいた。講演では、大学で学ぶとはどういうことかを中心としたお話であった。まず、京都大学での入学式で当時の奥田東総長から「京都大学ではみなさんに何も教えない」という意味の挨拶があって大いにびっくりしたことからは始まり、高校までの学びと大学でのそれとの違い



講演中の永田先生

は、「わかっていないことがあるということ、解は一つでなくいくつもあること、などを教えるところだ」と強調された。特に学生へは「みんなが右を向くときには一度左を向いてみる必要がある」、「大学生には群れてばかりいないで孤独（つまり自分の時間）も大切にしてもらいたい」、「学問や本により知らない自分を知ることによって自己の相対化ができる」、「思考の風通しをよくする」といったメッセージもいただいた。また、人体の細胞の数やそれに含まれるゲノム DNA の膨大さを例に、物の見方も教わった。さらには、亡くなられた奥様で歌人の河野裕子さんや恩師との出会いや別れに際しての、「思い」を伝えることのむつかしさ・重要さについてのお話もあり、大変貴重なお言葉であったと受け止めた。永田先生は湯川秀樹にあこがれて京都大学の物理学科に進まれ

たということで、実際に退官直前の湯川教授の講義を受けることができたそうである。講義より、教師に興味を持つことの大切さ、学生にとっての教員との講義室を超えた交わりの大切さを、強く述べられていた。



ワークショップの風景

講演に続く後半のワークショップでは、『近代秀歌』『現代秀歌』に掲載されている歌をもとに短歌を説明された。その後、一部を空欄にした短歌を配布して、そこにどのような言葉をあてはめるか、という言葉と表現に関する課題を行った。永田先生は、聴衆の間を歩きながら一人ひとりからあてはめた言葉を聞いていき、これに対してコメントを述べながら進めていった。例えば「たとえば君 やうに私をさらつて行つてはくれぬか（河野裕子作）」の四角に何が入るか、何を入れるか、というものである。短歌の型を考えつつふさわしい言葉を選ぶ難しさを、学生は感じいったと思われる。

ワークショップの終了後、伏木信次・京都府立医科大学副学長からの閉会の挨拶があり、講演会は終了した。何人かの参加者が永田先生の著書を持参しており、終了後にサインをいただいた。

報告の最後に:アンケートの回収率は7割程度で、内容についての感想は、概ねよかった。個人的に学生からもらった感想には、「永田先生のお話は自然と聞き入ってしまう内容ばかりでした。奥様との話は大変感動しましたし、短歌に対する見方も変わりました。タンパク質についてのお話も伺いたかったです」というものもあった。

参加人数は、三大学学生 56 名、高校生 10 名、教職員など 15 名（主催者と永田先生の母校である嵯峨野高校の副校長 2 名を含む）の合計 81 名。大学生の内訳は、医大生 33 名、藤井ゼミ学生 16 名（府大生 9 名、工芸繊維大生 6 名、医大生 1 名）、工芸繊維大生 5 名、府大生 2 名。医大生では 3 年生 2 名、2 年生 6 名、1 年生 26 名（うち看護学科生 1 名）。高校生では、嵯峨野高校から 6 名、西京高校から 3 名、京都教育大学附属高校から 1 名の参加者があった。工芸繊維大生は、藤井准教授が働きかけた学生である。また講演会に先立つ野村准教授の DVD 上映会には 16 名の医大生が参加していた。参加人数からは、会場が 120 人教室であったこともありとりあえずは、盛会といえることができる。特に、様々な行事と重なって非常に人の集まりにくい日程であったことを考えると、精一杯の人数と言えるかもしれない。一方で、この人数は高校生も含めて、センター長と藤井准教授のはたらきかけによる部分が大半を占めていることは明らかである（少々自画自賛的ではあるが）。

最後に、講演いただいた永田和宏先生、事前の

準備や当日の受付などにお手伝いいただいた本機構の事務の方々、DVD 上映会を企画した同僚の野村准教授、呼びかけに応じて参加してくれた学生・生徒の皆さんなど、多くの方々にお礼を申し上げて、報告とさせていただきます。



講演会当日の受付



機構運営委員長・小沢先生による開会の挨拶



医大副学長・伏木先生による閉会の挨拶

京都三大学教養教育研究・推進機構

(京都工芸繊維大学・京都府立大学・京都府立医科大学)

リベラルアーツセンター主催 講演会

何のために学ぶのか？ －教養教育と複眼的思考



講師：永田和宏氏

京都産業大学教授・歌人・京都大学名誉教授

著書 「タンパク質の一生」(岩波新書)・「現代秀歌」(岩波新書)・「歌に私は泣くだらう」(新潮社)
「たとえば君 四十年の恋歌」(河野裕子氏と共著、文春文庫) ほか歌集、エッセイなど多数

日時：平成 26 年 12 月 21 日 (日)

午後 1 時 30 分 ▶ 午後 3 時 45 分

講演とワークショップ

場所：稲盛記念会館（京都府立大学内）2階 208 室

対象：京都三大学学生・高校生 **参加費無料**



1. 地下鉄丸線北山駅下車。1 番出口から南へ 徒歩 10 分
2. 京阪出町柳駅から市バス 1 番、「府立大学前」下車。徒歩 5 分

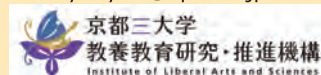
問い合わせ先

〒606-0823

京都市左京区下鴨半木町 1-5

電話 075-703-4925

e-mail kyoyou@kpu.ac.jp



京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences



京都三大学の1学年の皆さん

師走の日曜日の午後に、理系アタマと文系アタマ をシャッフルしてみませんか？

来る12月21日（日曜日）の午後1時30分から、教養教育共同化施設「稻盛記念会館」において、皆さんを対象に「**何のために学ぶのかー教養教育と複眼的思考**」というタイトルで、永田和宏先生の講演会を行います。永田先生は、ヒートショックタンパクという正常なタンパクの機能に必須の分子を見つけられた先生として細胞生物学分野で非常に有名で、そして同時に歌人としても大変有名な方です。

このような文系・理科系を横断的に活躍されている先生に、多面的な視野をもった学びの大切さと教養教育の意味について講演していただきます。

前半でみなさんに向けた応援メッセージを含む講演、後半は「感じること」をいかに言葉で表現できるかという内容のワークショップをお願いしています。

友達を誘い合ってぜひ参加してください。

問い合わせ先

京都三大学教養教育研究・推進機構事務室

電話 075-703-4925

e-mail kyouyou@kpu.ac.jp

京都三大学教養教育研究・推進機構

リベラルアーツセンター長

京都府立医科大学教授 小野勝彦

平成26年11月

参加する人には、問い合わせ先にひとこと連絡をもらえるとありがたいです。が、飛び入りも大歓迎です。